

10. 学校評価～最終評価の結果と改善策～

学校教育目標

確かな学力をもち、心豊かでたくましく生きる子の育成
～自力、全力、底力を発揮して～

① 確かな学びのある学校づくり

○教員の強肯定の割合が中間評価より高くなった。

○どの項目も保護者や児童の肯定的意見の割合が高くなった。

▲検証問題の結果、書く力がまだ十分ではない。

☆書く取り組みについては課題を把握し、それに合った記述を授業等の中で意識していく。※今年度の課題は、複数の資料などから題意を読み取ったり、条件を意識して書いたりすること。

☆基礎基本の習熟を図るよう、授業での「分かった」を大切にしていく。そのために、児童同士の問い返しや、分かりやすく伝えるための対話を児童も教員もさらに意識していく。

② 温もりのある学校づくり

○全体的に肯定的意見の割合が高い。

○項目6について、肯定的意見が保護者も児童も前期より大きく割合がアップしている。

▲保護者の強肯定が前期よりややダウンしている。

☆ファミリーデーの取り組みやタコストレッチを家族で行ってもらうなど継続して取り組んでもらう。

③ 健康な体を育む学校づくり

○教職員の強肯定の割合が高くなった。

▲運動と生活習慣に関する項目において、児童・保護者の肯定的意見の割合が低くなった。

☆児童が体を動かして取り組める活動を積極的に行う。

☆定期的に健康チェックアンケートを実施し、健康課題がある児童に対し日頃から声掛けや指導を行うようにする。また、児童が自分の生活を振り返る機会を設け、改善に向けて考えさせる。

④ 地域と連携した郷土愛を育む学校づくり

○児童・保護者の強肯定の割合が高くなった。

▲教職員の肯定的意見の割合が高くなったが、強肯定の割合が低くなった。

☆木工体験など地域の人・もの・ことについて学ぶ機会があり、児童の肯定的意見の増加につながった。

☆行事等でまとまった時間が取れず、地域教材を活用しきれなかったと感じている教職員が増えたと考えられる。授業での活用計画を立てたり、情報発信の機会を増やしたりして、更なる連携を図りたい。

⑤ 教職員のチーム力を活かす学校づくり

○どの項目も肯定100%で、強肯定の割合も12.5%アップした。職員が協働的にやりがいをもって業務に励んでいることがうかがえる。

○時間外勤務は、1学期平均35時間7分であったが、2学期平均は27時間26分となった。集中して業務を行ったり、割り振りするなどしたことで、時間の減少の効果があったのではないかと。

▲定時退校日・マイ定時退校日の取組率は約77%だった。

☆定時退校日・マイ定時退校日の意識を高めるために、呼びかけや連絡掲示板でのお知らせを行うようにする。